

## 日本橋の地域活動への取組み

(株)建設技術研究所 国土文化研究所 正会員 ○今西 由美  
NPO法人 東京中央ネット専務理事 山田 晃子  
(株)建設技術研究所 国土文化研究所 フェロー 伊藤 一正

### 1. 目的

日本橋地域は江戸時代に日本の文化・経済の中心地であり、現在も江戸から続く400年の歴史を、いたるところで垣間見ることができる。江戸の人口は18世紀末に100万人に達し、近代日本を形成していた。しかし、その後、東京オリンピックに伴い日本橋地域では1960年代に高速道路が建設され無機質なオフィス街へと変化した。しかし、1980年代から環境問題の見直しが始まり、日本橋及び日本橋川も地域の人々や企業により環境の再生が望まれ、行政や地域企業も個人も一体となり地域活性化に向けた取組みが進められるようになった。

筆者等は2002年から日本橋地域の活性化を目指した様々な地域活動に取り組んできており、その中から本論文では、2007年8月に設立した日本橋美人推進協議会、江戸日本橋観光めぐり事務局の取組みを通じた日本橋地域観光開発について述べる。

### 2. 日本橋地域の現状と課題

近年、都内では数多くの大規模な都市再生事業が進められている。六本木や有楽町、丸の内、八重洲など、集客力のある魅力的な都市が創られる一方、日本橋地域の魅力は徐々に低下している。

#### 1) 観光資源の埋没

**課題1: 日本橋地域の歴史的建造物や老舗が内外に伝達されず、観光誘引に活かされていない**

中央区には日本橋をはじめ国及び都の重要文化財など多くの歴史建造物が現存するとともに、100年を超える老舗が数多くあり、固有の文化が存在する。しかしながら、それらは都内や全国にあまり認知されておらず、あるいは存在を知っていても人々の関心を得られていない現状がある。

現在、中央区には、6つの重要文化財（建造物）と、11の東京都選定歴史的建造物がある。

#### 2) 日本橋地域の地域活動の広報不足

**課題2: 日本橋地域の優れた活動の広報が十分に行われていない**

2005年9月から日本橋地域の企業や店舗と、地域企業の代表OLによる日本橋OLクラブ等が協働して、地域名産商品の開発を企画し、既に約40種類の「日本橋美人」と称した商品が開発されている。しかし、広報を十分に推進出来ていないことから、全国的な認知度が得られていない。

#### 3) 日本橋地域の知名度（訪問地ランキング）不足

**課題3: 歴史名所が多いにも関わらず訪日外客の訪問地上位にランキングされていない**

(財)国際観光サービスセンターによる訪日外客訪問地調査(12,232人の訪日外国人から得られた20位までの訪問地ランキング)では、1位が新宿、2位が銀座で日本橋はランクに入っていない。

#### 4) 街のイメージ

**課題4: 日本橋は、人々がショッピングに行きたいと思う**

**街にランキングされていない。**

東京・街のイメージ調査(株マクロミル、東京都在住20~69才の1032名男女が対象)では、日本橋は「伝統的な」、「文化・芸術性のある」というイメージが定着しており、ショッピングに行きたい街等にランキングされず、また外国人を連れてゆきたい街にもなっていない。

「ショッピングに行きたいと思う街」			「外国人の友人を連れていきたいと思う街」		
順位	駅名	%	順位	駅名	%
1	新宿	37.3	1	浅草	42.1
2	銀座	26.6	2	六本木	17.0
3	渋谷	21.1	3	秋葉原	11.9
4	池袋	11.6	4	新宿	11.7
4	表参道	11.6	5	銀座	10.1
6	吉祥寺	9.1	6	渋谷	6.3
7	原宿	6.0	7	上野	6.0
8	秋葉原	4.7	8	原宿	5.8
8	自由が丘	4.7	9	東京	5.1
10	有楽町	4.1	10	表参道	3.3

図-1 東京・街のイメージ調査

出典:2006年『東京・街のイメージ』調査、株式会社マクロミル

キーワード 地域活動、日本橋美人推進協議会、日本橋、観光めぐり、活性化、江戸日本橋観光めぐり事務局  
連絡先 〒103-8430 東京都中央区日本橋浜町 3-21-1 日本橋浜町Fタワー

株式会社 建設技術研究所 国土文化研究所企画室 TEL: 03-5695-1967

### 3. 課題解決のための江戸日本橋観光めぐりの提案と実施

このような課題を解決するため、2007年6月に日本橋地域の活動団体である東京中央ネットは、日本橋美人推進協議会を設立し、日本橋の地域ブランドである「日本橋美人」をより一層定着させる活動に着手した。

日本橋美人推進協議会では、その事業の1つとして、国内外からの観光集客により日本橋地域を活性化し、観光開発を目指す江戸日本橋観光めぐり事業に着手した。江戸日本橋観光めぐり事業では、第1に都内の人々、第2に全国の人々、そして将来は海外の人々に日本橋地域を訪れてもらい、江戸から続く歴史、文化を伝えると共に、日本全国の物産の集積地の日本橋を詳細に紹介する観光情報の提供を地域の人々と連携して実施している。平成19年11月から平成20年3月までに情報提供は延べ144名の方々に対し実施された。

写真1 江戸日本橋観光めぐりの様子



#### 江戸日本橋観光めぐりの概要

- 実施日／実施時間：2007年11月～2008年9月の第3火曜日と第4火曜日、10時から12時
- コース：三井タワー1階ロビー集合→千疋屋総本店→山本海苔店→日本橋→榮太樓總本舗→日本銀行→常磐橋門跡→貨幣博物館見学・アンケート・解散
- 費用：無料。別途保険料はあり。
- 募集定員：各回10名(先着順) 最少催行人員：1名※雨天決行となる。

### 4. 江戸日本橋観光めぐりの実施後の地域活性の効用

地元の名店と企業が協働で地域活性化のための観光めぐりを実施することで、日本橋地域内の団体同士の交流や情報共有ができ、地域外に対して地域の取組みをPRすることとなった。

ガイドや各店舗の説明者は比較的若い世代が担い、若者が中心となって観光めぐりを展開し、参加者に、若い世代の街おこしを印象付けることができた。

### 5. 江戸日本橋観光めぐり実施後の課題

#### 1) バリアフリーの観光めぐりの検討

一般の方からの問い合わせで、参加したいが歩くことに自信がなく、舟めぐりがあるなら参加をしたいという申し出が多くあった。事務局は街歩きのコースとともに、バリアフリー観光めぐりを研究し、日本橋地域をフィールドとした観光コースの開発を進めている。

#### 2) 組織体制の確立

高品質で確実な情報提供を行うためには、事務局体制の整備が不可欠である。特に組織運営のための財務スタッフ、情報内容充実のための研究スタッフ、実際のサービスを実施するための情報提供スタッフなどの体制確立により、高い満足の提供が可能となる。

#### 3) 中長期計画の立案

日本橋地域には、地域の賑わいを再生するために若い世代の活用が不可欠である。そのために、夜間や土日に情報を提供できるコースなどの開発が必要である。今後の観光めぐりをどのように運営するか事務局の組織体制を含む中長期の事業計画の策定、資金獲得プログラムが必要となる。

### 6. まとめ

平成19年度は、江戸日本橋観光めぐり事務局を設立し、観光開発をキーワードに日本橋の地域活動の新しい側面を生み出すことができた。日本橋の地域活動は企業の社会貢献活動を基盤としているが、皆が可能な範囲で可能な事から地域と協働で取組む事が必須である。平成20年度には、日本橋地域で浮世絵を用いた「日本橋美人博覧会」が計画され、連携した観光めぐりの実施、バリアフリーコースとしての舟めぐりについて企画検討を進めている。